

【埼玉県】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

・ICTを学校教育における基盤的なツールとして活用し、多様な他者と協働しながら主体的に学び、話し合い、考えの統合を図る「協働的な学び」を進める中で、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進める「個別最適な学び」の実現を図る。

・ICTの活用を通じて「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、児童生徒が学ぶことへの興味や関心を持ち主体的に取り組み、他者との対話を通じて自己の考えを広げ深めることで、自ら問題を見いだして解決策を考える「主体的・対話的で深い学び」を実現する。

2. GIGA第1期の総括

【現 状】

GIGAスクール構想により、県内の小・中学校等では、高速大容量の通信ネットワークと1人1台端末の整備が進み、学校のICT環境が急速に進展した。また、県立特別支援学校においては、大型提示装置や障害種に応じた入出力支援装置も整備した。また、全県立学校に教育クラウドを導入し、授業等での活用が進んでいる。

県立特別支援学校においては、小学部・中学部・高等部の全てにおいてICTを「ほぼ毎日」又は「週に3～4日」使用している学校が多く、県立中学校においても「ほぼ毎日」端末を使用している。また、県立特別支援学校においては、児童生徒の障害特性等に応じてコミュニケーションツールや学習課題に応じた学習・支援アプリ等の活用も進んでいる。

【課 題】

ICTの活用が進んでいる一方、学校間や教員間で活用の差が生じていることが課題として挙げられる。また、県独自調査によると「効果的な指導方法が分からない」ことを課題としている学校が多い。今後、ICTの活用が一層重要になることから、学校や教員間で、ICT活用の意義に対する理解や活用状況にばらつきが生じないように取り組む必要がある。

また、県立学校に対し通信ネットワーク回線に関する調査を実施し、時間帯によっては繋がりにくい等の課題があると回答があり、円滑な活用に向けて早急にアセスメントの実施及び改善に取り組む必要がある。

【課題に対する具体的な解決策】

- ・ICT活用プロジェクトの実施（授業モデル公開、先進校視察、実践事例の共有等）

- ・「埼玉県立学校版教師のICT活用指導力向上のためのルーブリック」の活用推進
- ・学校からの相談や要望に対応するWEB相談窓口の設置（オーダーメイド型支援）
- ・研修の充実（各年次研修、学校からの個別の相談に応じた研修）
- ・ネットワークアセスメントの実施及びネットワークの改善

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末環境を引き続き維持し、クラウド活用を前提として児童生徒自身が自ら学びを自己調整することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

特に県立特別支援学校においては、児童生徒の持てる力を高め、障害による生活や学習上の困難を改善又は克服するため、各教科等における指導のほか、自立活動においてICTの活用を推進し、障害特性に応じた教育の充実に取り組む。

また、学校における学びが困難な不登校や病気療養等の児童生徒に対しては、オンライン等を活用した授業配信やICT教材の提供、遠隔での相談の実施など様々な教育機会の提供を図る。

生徒指導上の課題への対応については、1人1台端末を活用し、児童生徒の心の状況変化等の早期把握、早期対応につながる取組について周知する。

日本語指導が必要な児童生徒への対応については、ICTを活用することにより、一層の教育の充実に向けて取り組む。

【主な取組】

- ・クラウド活用を前提とした1人1台端末活用事例の蓄積と共有
- ・入出力支援装置や学習・支援アプリなどの活用による障害特性に応じた学習活動の推進
- ・障害種に対応したICT活用事例の蓄積と共有
- ・病気療養の児童生徒に対するオンライン授業の実施
- ・オンラインによる教育相談の実施とメタバースを活用した支援に関する取組
- ・1人1台端末等を活用した「心の健康観察」に関する成果や課題の周知
- ・日本語支援員によるオンライン日本語教室の実施